

再評価結果（平成21年度継続箇所）

担当課：道路局 有料道路課

担当課長名：上野 進一郎

事業名	四国横断自動車道 <small>あなんしまんとせん</small> 徳島～徳島JCT～鳴門JCT		事業区分	高速自動車国道	事業主体	西日本高速道路(株)
起終点	自) 徳島県徳島市川内町鈴江東 至) 徳島県鳴門市大津町大代				延長	1.1 km
事業概要						
四国横断自動車道は四国縦貫自動車道とともに、四国4県の一体化を進めるとともに、沿線地域の振興に重要な路線である。						
H11年度事業化		H6年度 都市計画決定		H11年度用地着手		H11年度工事着手
全体事業費		1,071億円		事業進捗率		39% 供用済延長 - km
計画交通量		約4,500台/日 ~ 約5,300台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)		基準年
	(事業全体) 1.4 (残事業) 2.4	583/979億円 事業費：536/932億円 維持管理費：47/47億円		1,386/1,386億円 走行時間短縮便益：1,301/1,301億円 走行費用減少便益：59/59億円 交通事故減少便益：25/25億円		平成20年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施						
交通量変動 : B/C = 2.6 (交通量 +10%) B/C = 2.1 (交通量 -10%)						
事業費変動 : B/C = 2.6 (事業費 -10%) B/C = 2.2 (事業費 +10%)						
事業期間変動 : B/C = 2.5 (事業期間 -1年) B/C = 2.3 (事業期間 +1年)						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保(並行区間に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる) 国土・地域ネットワークの構築(当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する) 災害への備え(並行する高速ネットワークの代替路線として機能する) 他13項目に該当 						
関係する地方公共団体等の意見						
四国縦貫・四国横断自動車道は、本州四国連絡道路と一体となって四国の高速交通ネットワークを形成し、西日本各地との交流拡大や、地域の活性化を図るとともに発生すると予測されている南海地震等における緊急避難道路の確保など極めて重要な路線であることから、徳島県より整備促進の要望を受けている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
平成17年センサスデータをベースにした新しい将来交通需要見直し、費用便益分析マニュアルの改定がなされた。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地取得がほぼ完了し、本線工事に着手している。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
供用予定は平成26年度であり、現在、用地取得がほぼ完了し、本線工事に着手している。						
施設の構造や工法の変更等						
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。						
対応方針						
事業継続						
対応方針決定の理由						
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わっておらず、事業実施の目途が立っている。						
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。